

砺波市内の小学校の移り変わり

ーぼくたちの村に学校があったー

昭和・平成編



砺波郷土資料館長

時代とともに、学び舎の姿も
変わりました。環境に配慮した
学校で、陽ざしが差し込む明る
くてあたたかい教室の中で子どもたちは元気で学んでいます。

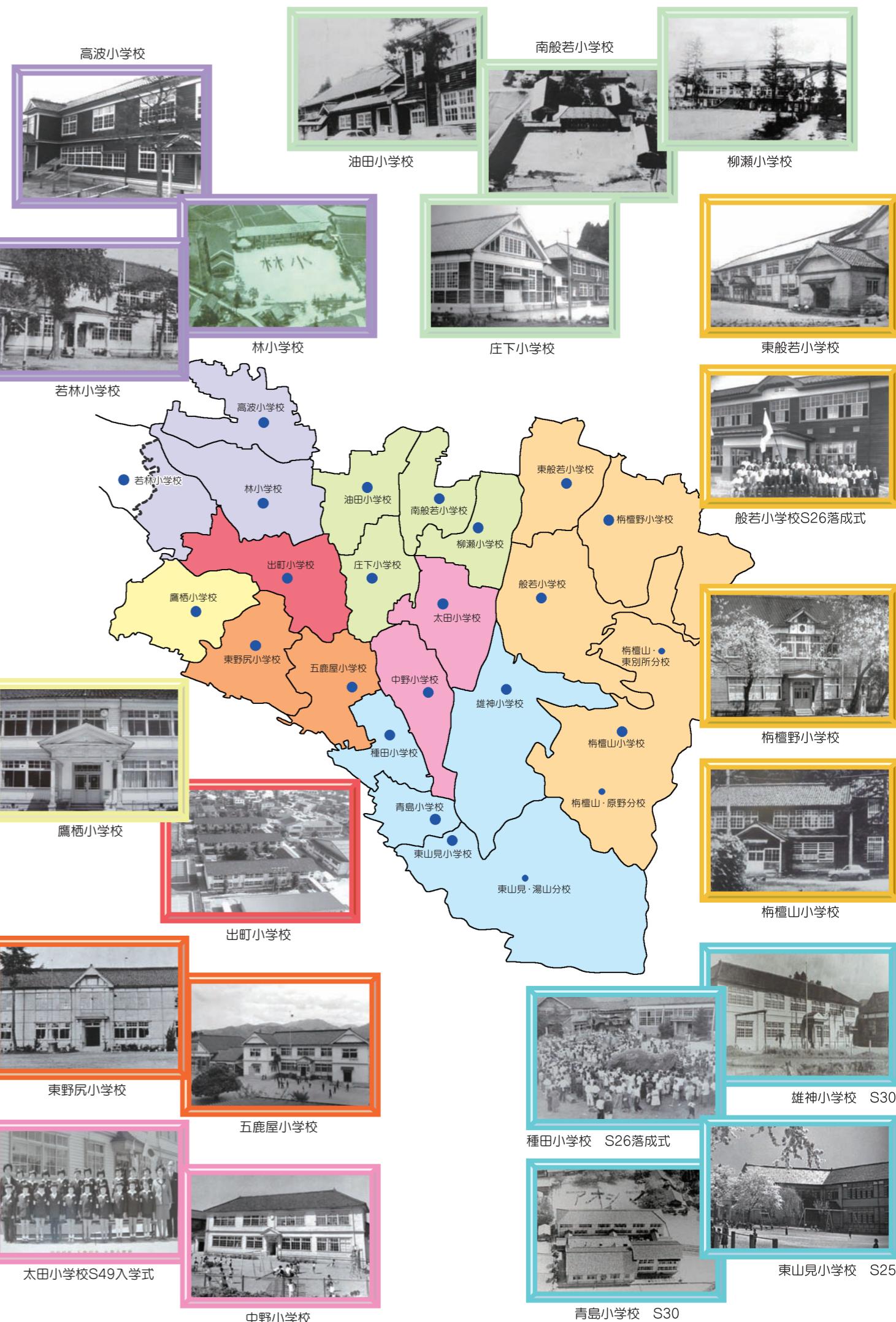
平成24年秋

時代とともに、学び舎の姿も
変わりました。環境に配慮した
学校で、陽ざしが差し込む明る
くてあたたかい教室の中で子どもたちは元気で学んでいます。

砺波市立 砺波郷土資料館

〒939-1382砺波市花園町1-78 TEL:0763(32)2339 Email:shiryokan@city.tonami.lg.jp

主催:砺波郷土資料館 / 砺波市文化協会



昭和初期—戦前

戦中・学童疎開

終戦 GHQ



民主主義的な社会風潮の影響を受けて、教育でも、児童が自発的に

計画的に学習するような児童中心主義の風潮がおこりました。

昭和に入ると、多くの学校に建てられた二宮金次郎像を見ながら報徳精神のもと、子どもたちは、貧しくもよく働き、寸暇を惜しんで勉強に励みました。

学校では祝祭日の特別な儀式があり、四大節は特に重要な式典でした。

式典には村長や村議会議長などが招かれて参列しました。生徒が整列すると、奉安殿に安置さ



奉安殿の前の式典

れている御真影が講堂の正面に掛けられ、一同深々と礼をしました。校長先生は白い手袋をして、巻物を開いて『朕惟ふに…』と教育勅語を読み上げました。その間、生徒たちは頭を下げたまま、微動だにせず、じつとその言葉を聞いていました。

ベビー・ブーム 統廃合



昭和30年代の運動会



昭和30年の臨海学校

戦争が終わり、兵士が帰還・復員したことによって、昭和22年から24年頃にかけて出生数が急激に増えました。これが、戦後の第一次ベビー・ブームです。

この間、日本の出生数は、年間250万人を超えた。富山県では、昭和22年に4万人を

超えました。

昭和30年代後半になると、ベビー・ブームによる児童数増加も一段落し、数年後には児童数、学級数が次第に減少することが予測されました。また、木造校舎の老朽化や教育費増大などが問題になつたことから、学校の整備、統合計画が持ちあがりました。旧砺波市では、昭和35年の時点で15校あつた小学校を10年計画で、8または9校に統合する計画が進められました。

しかし、地域住民にとって長く親しんだ地元校を廃校にすることは受け入れ難く、統廃合を推進する行政とそれに反対する住民との間で、対立運動が起つた地域もありました。

現在の小学校



疎開先のお寺での子どもたち

この教育基本法は、民主的で文化的な国家を建て、世界の平和に貢献するための教育を目的として示した、根本的な教育の法律です。学校教育法は学校教育の制度や運営を規定するもので、義務教育の6・3制が確立されました。

昭和16年4月1日、国民学校が発足しました。国民学校の教育は、皇国的教化、政治と教育の一体が強調され、国家と戦争の遂行が最優先されました。知識を修得するよりも、心身を鍛えて立派にすることが重視され、学校は鍛錬の場へと変わっていました。

戦況が一層激化した昭和19年、政府は大都市の国民学校児童をより安全な地域へ一時的に移住させる学童疎開を行いました。

富山県には東京の渋谷区、大森区、蒲田区、荏原区が割り当てられ、砺波では渋谷区と大森区の児童を受け入れました。

児童たちは、砺波各地の寺に寄宿し、そこから近くの国民学校へ通いました。遠く親元を離れて過ぐ

す寂しさから、泣き出す子や慣れない生活から病気になる子もいました。

連合国軍最高司令部(通称GHQ)は、占領政策の一環として日本の教育民主化に深い関心を寄せました。教育や報道、宗教などについて指導・監督を行なう民間情報教育局(通称CIE)という部局を置き、戦時教育の払拭を指示しました。

次々と教育に関する指令が出されると、現場の学校では、つい昨日まで大切にしていたものを処分しなくてはならない無情を感じつゝも、涙をのんで処理しました。

GHQ占領下の昭和22年、政府は、教育基本法と学校教育法を公布しました。

この教育基本法は、民主的で文化的な国家を建て、世界の平和に貢献するための教育を目的として示した、根本的な教育の法律です。学校教育法は学校教育の制度や運営を規定するもので、義務教育の6・3制が確立されました。

平成14年に学校週5日制になつて以来、子どもの様々な問題に対応する体制づくりを進めながら、情報、防災、環境、地域開放に配慮した学校へと姿を変えています。



明るいランチルームで今日もおいしい給食

また、太陽光パネルで発電し、校内の蛍光灯の電気として使用したり、雨水を溜めてトイレの流水として利用したりするなどエコな学校としての設備もあります。

屋上に取り付けられたソーラーパネル

現在は、昭和57年以前の建物への耐震化工事を順次進めしており、8割ほど進みました。新しく増改築された学校には、教室ほどの広さのオープンベース(廊下)やコンピュータが20台並んだパソコンルーム、地域の人々に活用してもらう地域開放ホール(兼ランチルーム)などがあります。

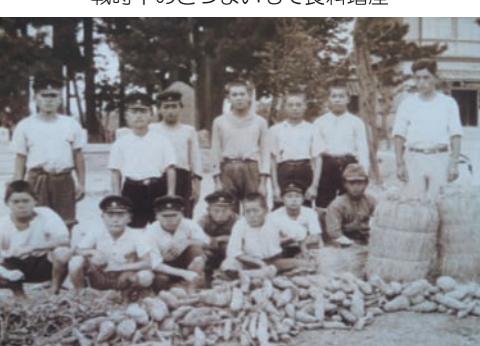
広い廊下 集会もできるオープンスペース



昭和50年代の授業風景



昭和30年代 小学校の廊下



戦時のさつまいもで食料増産